

12
月



平成30年11月26日

佛教大学附属幼稚園

かわらないもの

園長 田中典彦

今年もはや師走を迎えました。本当に早いですね、一年という流れは。一年の総計として一度思考を巡らせることがあっていいと思います。

もう20年もすれば、おおよそ60パーセントの職業がAI化されるということです。今幼稚園で無邪気に遊んでいる皆さまのお子様が生きてるのは、そのような時代だということとなります。いいえ、今もすでに始まっています。ある家庭では掃除機（ルンバちゃん）が働いています。ある料亭では配膳AIがお料理を運んでいます。また病院では介護の支援をしています。老人の話し相手をするロボットもあります。たしかに便利が進み、楽になるかもしれません。しかしそれだけで人間は生きていけるのでしょうか。もちろんそうならばそうなって、その時代に生きる人間があらたな生き方を求め、見出すであろうと思います。ですがそのような他人事ではないのです。子どもさんを育てる立場にある私たちも、今から先見の明をもってそのような時にも生きていける人間を育てるべく育児に取り組みねばならないと思います。

最近、教育界でささやかれているのは、これからの人間こそ世界観・人間観・人生観をもって生きることが大事だということです。こんなことは当然のことなのですが、わたしたち日本人にとってはそうではないのです。というのは私たちは、世界（存在）とは如何なる意味を持ち価値をもっているか、人間とは何でありその存在の価値は何なのか、人生とはどうあるべきなのかなどの問題を突き詰めて考えることに慣れていないのです。あるいは殆ど意識もしていないと言ってもいいかもしれません。移り変わって行く環境に、ぶつぶつ言いながらも合わせて、何となく生きていく。新しいものだけに価値を認めて、それを追い求める。たとえば、新しいスマホが発売されるとなると前日から泊まり込みで買い求めようとするように。これが日本人の生き方なのかもしれません。しかし、家庭にも職場にも教育現場にもAIが入ってくるとなれば、わたしたちの人生の在り方が大きく変わることは必定です。「一体人間とは何なのか」とその価値を問わざるをえなくなると思います。

仏教では、社会に生きる人間は、自分という存在（因）と他人という存在（縁）との関わりによって成り立っているものなのです。そのような生き方をしてゆく人間の意味・価値はどこにあるのだろう。人間に一番近い猿と人間との違いにそれを求めて、人間は猿より三本毛（け）が多いと捉えていたのです。「見分け、情け、やり遂げ」、つまり「知・情・意」です。AI化が進んだとしても人間にとって根本的な在り方は変わらないだろうと思います。

いつの時代どんな時代においても人間は幸せを求めて生きてゆくことには変わりはないでしょう。「幸せとは、心の中にある夢を姿形の有るものとして実現することである」と教えられています。園での月々の誕生会で、子どもたちは自分の将来の夢をかわいらしく語ってくれます。やがて大きな夢をもってそれを実現していつてくれるような人になって欲しいと願いつつ、「見分け、情け、やり遂げ」を身につけてもらえるようひきつづき精進してまいります。今後ともご支援をお願い申し上げます。それではよいお年を。